本コーナーでは、社会課題の解決、業務革新、人材の育成などに積極的にチャレンジしている企業や団体をご紹介します。

中部国際空港株式会社

脱炭素・循環型社会の実現に向けた新たなペットボトル回収スタイルの展開

～「水平リサイクル」でロスのない循環を～

2021年5月に、2050年までに空港からのCO_2排出量実質ゼロを目指す「セントレア・ゼロカーボン2050宣言」を表明した中部国際空港(株)。コロナ禍前に年間1,200万人以上の旅客が訪れていた国内有数の集客施設は、空港利用者とともに、カーボンニュートラル実現に向けた独自の取り組みを展開している。今回は、その一つとして空港内で出るペットボトルごみの回収・リサイクルに着目し、資源循環を目指す新たなチャレンジを紹介する。

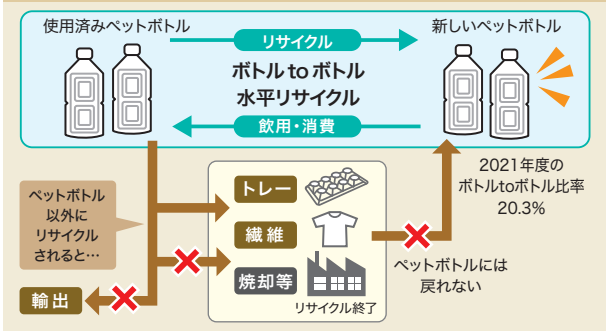
国際空港だからこそ国際社会の課題に取り組む

2005年に開港し、コロナ禍前の2019年度には航空旅客数が約1,260万人と過去最高を更新した中部国際空港。コロナ禍で旅客数は減少したものの、2023年5月の旅客数は前年比86%増と急速な回復傾向にある。開港当初から経営の優先課題としてゴミのリサイクルなどに取り組んできたが、脱炭素社会の実現が国際社会の喫緊の課題であることを受け、取り組みを前進させることが必要不可欠であった。

リサイクルの新スタイル「ボトル to ボトル」

同社は開港当初から、脱炭素社会の実現に向け、ゴミのリサイクルなどのCSR活動を進めてきた。その先頭に立ち、地域との連携や資源循環に取り組む地域共生部事業調整グループ主任の渕上順太氏が、2020年に出会ったのが、サントリーホールディングス(株)が主導するプロジェクト「ペットボトル水平リサイクル『ボトルtoボトル』」であった。

水平リサイクル「ボトル to ボトル」の仕組み



同プロジェクトの最大の特徴は、使用済みペットボトルを新たなペットボトルにリサイクルし、CO_2の排出量を従来のリサイクル方法より軽減できる点にある。従来のリサイクル方法では、回収されたペットボトルの一部は食品トレーや衣類などになるが、最終的には廃棄物として焼却されるなど、多くのCO_2を排出する。そこで渕上氏は、中部国際空港が1年間に排出する約80トン(2019年度実績)ものペットボトルの一部が、従来のリサイクル方法で処理されていたことに着目した。「ペットボトルは多くの利用者が関わるもの。水平リサイクルは社内だけでなく空港利用者にも協力していただくことが必要」と考えた渕上氏は、早速サントリーホールディングス(株)等関係者とともに、空港内におけるペットボトルの回収・運搬・処理方法の検討を重ね、2022年初め頃に具体的なスキームを確立させた。

国内の空港初！水平リサイクルプロジェクト始動

プロジェクトが形になったのは2022年7月。国内の空港として初めてペットボトルの水平リサイクルの取り組みがスタートするとともに、空港所在地である常滑市と中部国際空港(株)、サントリーホールディングス(株)の三者は、同市内から排出される一般廃棄物のペットボトルについても水平リサイクルを導入することとした。この他、中部国際空港では、旅客だけでなく、食事やイベントなどを目的に最も多くの

利用者が訪れる第1ターミナルビル4階イベントプラザ内と名鉄中部国際空港駅につながるアクセスプラザ前の計5カ所に専用リサイクルボックスを設置した。これらの取り組みの結果、新たに化石由来の原料を使用する場合と比較して6割（約115トン）を削減できることがわかり、常滑市全体となれば、さらに大きな効果が期待できる。

イベントプラザの一角に設置された専用ボックス

環境意識を一層広く社内外に届けるためにできること

専用リサイクルボックスの設置や空港内におけるPR活動を行った結果、一定のCO_2削減効果を見込めることが分かった。しかし、渕上氏は「これまで以上に活動を普及させ、空港の脱炭素化を目指す必要がある」と強調した上で、以下の課題を挙げている。

リサイクルにおける今後の課題

- **正しい水平リサイクル方法の周知**
  （ラベルやキャップを外し、ボトルのみを捨てるなど）
- **専用リサイクルボックスの増設**
- **ペットボトル以外のプラスチックのリサイクル推進**

「夏休み親子リサイクル教室」を開催

小学4～6年生の親子を対象にペットボトルの水平リサイクル教室を開催。約90名の親子がリサイクルについて楽しみながら学んだ。

2022年8月の様子

脱炭素・循環型社会を実現するために、空港が目指すこと

中部国際空港がCO_2排出量のさらなる削減を目指す上で、空港機能に直結する電気使用量削減などの取り組みも必要となる。また、航空業界で注目されているSAF（持続可能な航空燃料）の生産にあたっては、空港から排出される資源の活用などを検討している。今後も脱炭素・循環型社会の実現に向けた国内外の動向を注視しながら、自社のみならず利用者や地域をいかに巻き込み、取り組みを発展させていくか。先を進む世界中の空港をライバルとして、これからも挑戦を続けていく。

文：（株）広瀬企画　広瀬達也
写真撮影：無印／岩瀬有奈　　写真提供：☆印／中部国際空港（株）

メッセージ

中部国際空港株式会社
地域共生部 事業調整グループ
主任
渕上 順太

中部国際空港（株）は、国際空港という立場から、国際社会の課題に敏感であることが求められています。2021年5月には、2050年までに空港からのCO_2排出量実質ゼロを目指す「セントレア・ゼロカーボン2050宣言」を表明。さらに一部を改正して2030年度までにCO_2排出量を2013年度比46％以上削減、2050年度までにカーボンニュートラルを実現するとともに、炭素クレジットの創出を目指すことを宣言しました。空港の地上施設からのCO_2排出量のうち、最も大きなものは空港機能を維持するための電気使用量です。この削減が最大のターゲットではありますが、数多くの利用者がいる場所だからこそ、社会に対しても「循環型社会・カーボンニュートラル」の重要性を伝えたいという思いで、水平リサイクルの取り組みを始めました。

社内においては、イントラネットに「セントレアSDGs推進コミュニティ SDGs365ポータル」を開設し、セントレアグループにおけるSDGsの取り組みなどをグループ社員に情報共有することで活動を推進し、ぜひ多くの方と協力しながら、国際社会の課題解決に向けて、チャレンジしていきたいです。

中部国際空港株式会社
［創業］1998年5月　［事業内容］中部国際空港の設置および管理　など
［代表者］代表取締役社長　犬塚　力　［所在地］愛知県常滑市セントレア一丁目1番地
［TEL］0569-38-7777

詳しい取り組みは、こちらから ▶
https://www.centrair.jp/corporate/csr/environment/activity/petbottle.html